

## 附属中学校におけるLFタイムの活用 一月と桜と西行法師について—

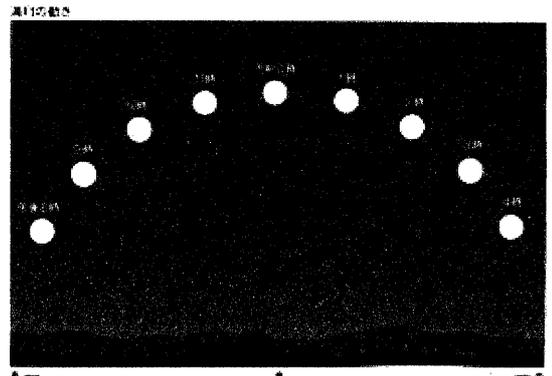
鳴門教育大学学校教育学部 ○村田勝夫

キーワード：月の動き、上弦の月、下弦の月、如月の頃、月と桜、桜と西行の歌

鳴門教育大学附属中学校では、LFタイム(Long Fuzoku Time)という時間が設けられ、主に「生き方を学ぶ」という趣旨で大学の教員がお話や授業をすることになっている。桜の季節から少し経っておりましたが、平成18年6月26日(月)に体育館で、1年と2年の計8クラスの生徒にお話をを行った。本授業の目的は、月の運行を中心とした理科的なお話の中に、写真と短歌を絡め、桜と西行法師の登場により、理科の教科の中でどの程度生徒に情緒的な影響力を与えることができるか、という秘かな試みも念頭においてみた。

学習研究社のウェブサイトには、月の運行がとてもよくわかるウェブページ(<http://kids.gakken.co.jp/campus/academy/jisaku/contents/049tsuki.html>)がある。三日月や満月についてはよく知られた月の満ち欠けがあるが、上弦の月や下弦の月の形状や、見える時期や時間というものは、どうしても認識が甘くなる。小学校における、教科書、参考書には、月の動きが連続図として表現されている。しかし月の運行に関しては、デジタル教材のよさが、アナログ教材よりはるかに上回っている。上弦の月、下弦の月という表現は、英語には見られない特徴を持つ。英語では、first quarter と last quarter という情緒のない表現にとどま

観察室の南東から南西の空に見えた月の動きの記録が、満月の動きの記録を見て、月の動きかたを考えよう



満月は、夕方、東のほうから出て南のほうに向かってのぼり、

っている。月の運行をデジタル教材でたどると、月が東から出て西に沈もうとするとき、月の弦が上を向いているのが、上弦の月であり、西に沈もうとするとき、下に弦が向いているのが、下弦の月である。そういう風に理解すると、月の動きがとても楽しくなる。

月と桜は東山魁夷による作品が有名であるが、落花激しい頃の桜もまた見事である。古来、月や桜をめでて、たくさんの詩歌が詠まれている。代表的な歌人に西行法師がいる。西行の山家集に、「願わ

くは 桜のしたにて 春死なん その如月の 望月の頃」, という有名な歌がある。(どうか, 春の, 桜の下で死にたいものだ。あの釈迦が入滅なさった 2 月 15 日頃に。) 現在は, 太陽暦中心の生活になり, 太陰暦である月中心の生活からすっかり遊離しており, 三日月と満月以外はあまり注目されていない。つまり望月という表現や, 如月が桜の季節とどのような関わりが可能であるのか, 大人を含めた現代人には, 特に疎くなっているのです。その点を考慮して中学生にも情緒的な揺さぶりをかけてみた。その結果を感想という形式で抽出したものの一部を下記に示した。

- ・ 小学校で習った「月の現れ方」が, 今回のお話を聞きながら「あ, なるほど, こういうことだったんだなあ」と改めて思うことができました。
- ・ 満月のときは, 夜の間ずっと月が出ているけれど, 上弦の月や下弦の月のときは, あまり月は出ていないということがわかりました。また月は, 昔の人の歌にも多く出ているということがわかりました。
- ・ 月は天文学的に見れば 1 つの星というまでだが, 少し視点を変えてみると, 艶やかな妖気を持つ妖しさも受け取ることができる。青白く美しい月に心奪われたものも少なくないだろう。西行法師もおそらくはその一人ではないだろうか。
- ・ 月の変化というのは小学校で習っているけれど, 歌などに月の言葉が用いられているとは知りませんでした。歴史に名を残した松尾芭蕉でさえも, 望月という満月を意味する言葉が使われています。
- ・ 月の話は日本人として「情緒」を大切にしていきたいと思います。
- ・ 今日の話と桜と西行法師のお話のことはとてもわかりやすいもので, いろいろと楽しいところがありました。上弦や下弦についてよくわかりました。
- ・ 題名を知ったときは, どういうことだろうと思ったけど, お話を聞いて, 月と桜はペアとしていろいろな句に使われているんだなあとわかりました。また月の呼び方, 英語でなんとかがわかりました。
- ・ 月は何も見えないところから, 何故, 満月に見えるのであろうか? 村田先生の話で, そのことについてよく考えさせられた。またサイトで月はどのように動くかなどを見せてもらってとても勉強になった。

